

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	都島区
学 校 名	大東小学校
学校長名	地丸 大介

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大東小学校では、第6学年 56名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科で大阪市平均を1ポイント、理科で2ポイント上回ることができた。全国平均と比べると国語科で0.8ポイント、理科で0.1ポイント下回った。算数科では、全国平均・大阪市平均と比べて1ポイント下回った。平均無解答率は、全国平均・大阪市平均と比べて国語科・算数科・理科のいずれの教科でも下回った。

児童質問紙では、「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対する肯定的な回答の割合が、全国平均・大阪市平均より高い値となった。学習面では、「授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答の割合がいずれの教科も全国平均・大阪市平均より高かったが、「勉強が好きですか」に対する肯定的な回答の割合は、算数科と理科で全国平均より低い値となった。「5年生までに受けた授業で、P C タブレットなどのI C T 機器をどの程度使用したか」という質問に対して「ほぼ毎日」と回答した割合は、全国平均46.7%に対して、21.9%と半分以下の数値であった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

学習指導要領の内容の全ての項目で大阪市平均を上回ることができた。これは、昨年度までの取組でスクールアドバイザーによる継続指導を受けた成果であると考えられる。

〔算数〕

学習指導要領の領域では、「C測定」において大阪市平均を上回ったが、他の4領域では下回った。特に、「A数と計算」では4ポイント下回り、基礎・基本の定着に課題があることが明らかになった。

〔理科〕

学習指導要領の全ての区分・領域で大阪市平均を上回った。特に「エネルギーを柱とする領域」において6ポイント高い値となった。毎時間の学習において、問題解決の過程の予想に重点をおいた対話的な学びを進めた成果である。

〔無回答率〕

平均無回答率は、いずれの教科でも大阪市平均・全国平均と比べてが低かったことから、学習に粘り強く取り組み態度が育っていることがわかる。

質問調査より

昨年度より、ポジティブ行動支援（P B S）の取組を進めていることが自己肯定感の向上につながっている。また、トップアスリートなど各分野で活躍している人材を講師としてを招聘し出前授業を行っていることで、児童が自分の将来を前向きに捉えることに繋がっていると考えられる。

スクールアドバイザーによる授業改善の指導や学びサポーターの配置により、授業がよくわかると実感できる児童が増加したことは成果であるが、教科の学びの面白さに関しては、実感できていない児童が一定数いることが課題である。

また、授業におけるI C T 機器の活用率が全国平均の約半分の数値であったことから、授業改善と合わせてI C T 機器の活用を進めることが課題である。

今後の取組(アクションプラン)

これまでの取組に加えて、大学教授を招聘した研修会を開催し、更なる授業改善を進める。併せて、デジタルドリル等を活用して指導の個別最適化を進め、基礎的・基本的な内容の定着を図る。

P B S に関しては、定期的に大学教授を招聘して教員研修を行うことで、自己肯定感の向上を推進するとともに、各教科の学習での取組を促進し、学びへの知的好奇心を喚起する。

またトップアスリートなどの外部講師を招聘した出前授業を継続して実施し、自己の進路や将来への関心を高め、学びへの意欲を高めていく。

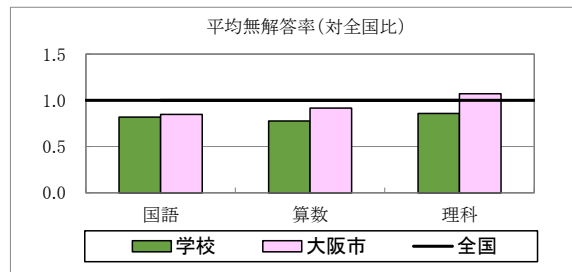
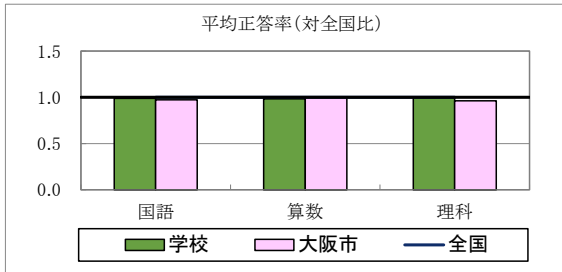
【 全体の概要 】

平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	66	57	57
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	2.7	2.8	2.4
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



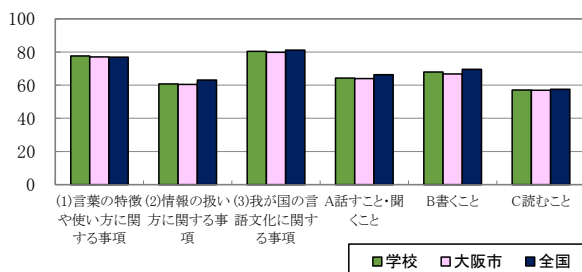
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	77.7	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	60.7	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	80.4	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	64.3	64.0	66.3
B 書くこと	3	67.9	66.7	69.5
C 読むこと	4	57.1	56.9	57.5

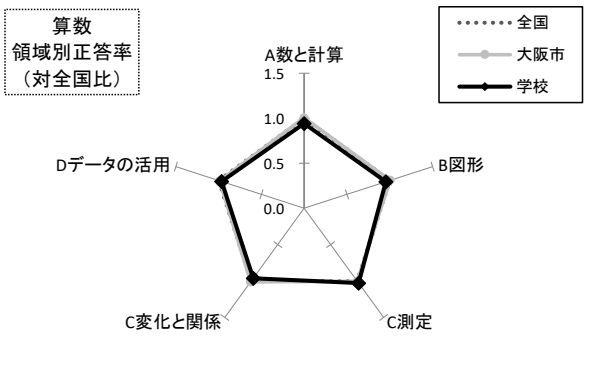
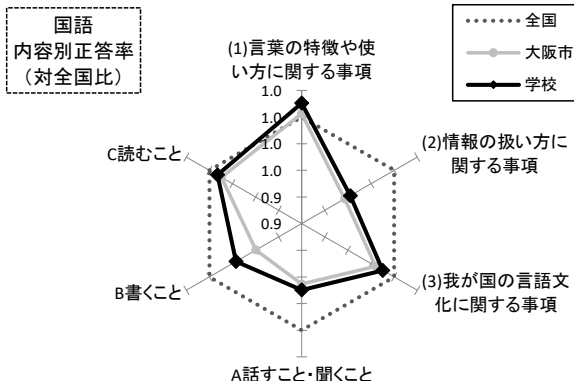
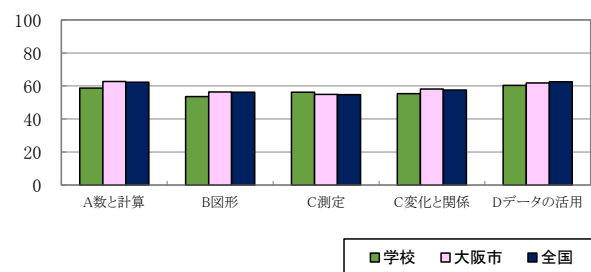
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	58.7	62.7	62.3
B 図形	4	53.6	56.4	56.2
C 測定	2	56.3	54.9	54.8
C 変化と関係	3	55.4	58.2	57.5
D データの活用	5	60.4	61.9	62.6

国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)

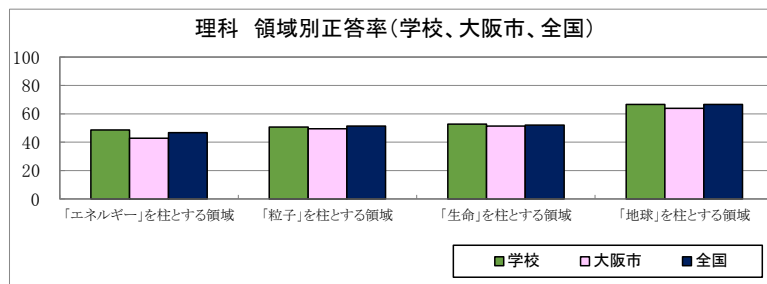


算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)

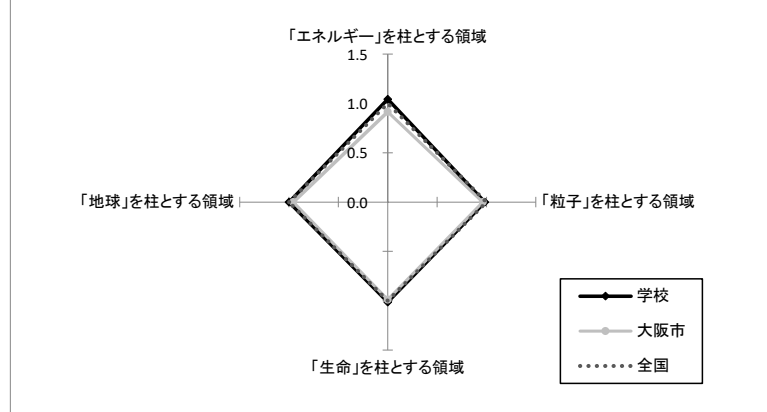


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	48.7	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	50.6	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	52.7	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	66.7	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

質問番号

質問事項

1

朝食を毎日食べていますか

1

2

3

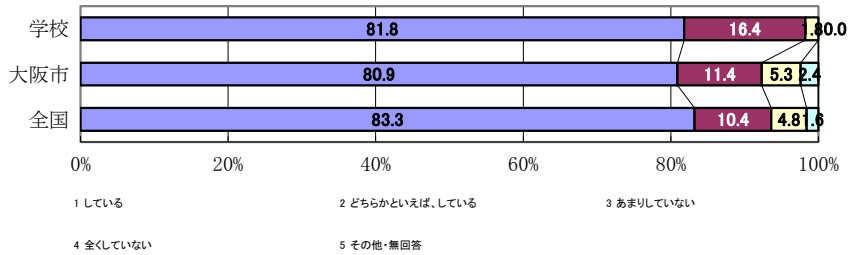
4

5

6

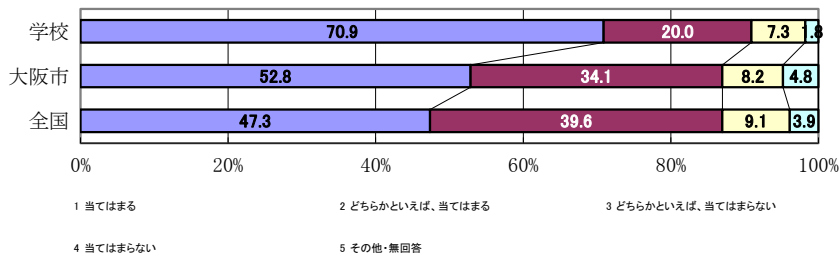
7

8



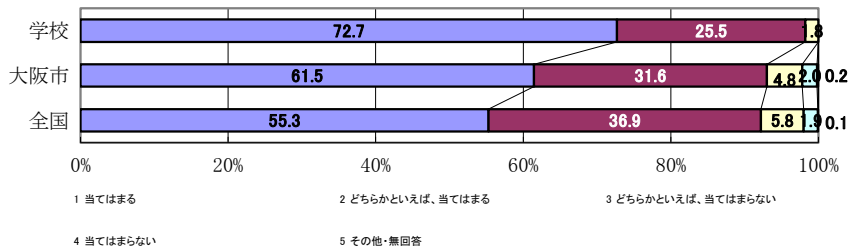
5

自分には、よいところがあると思いますか



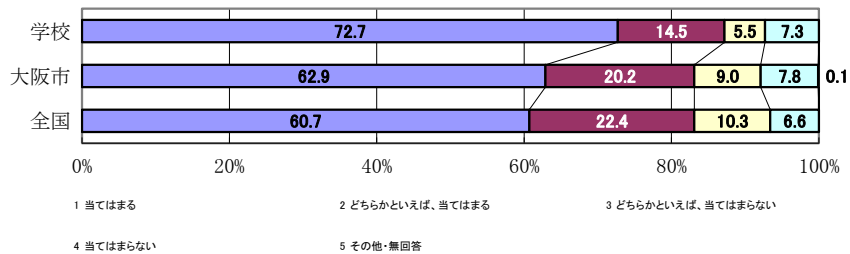
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



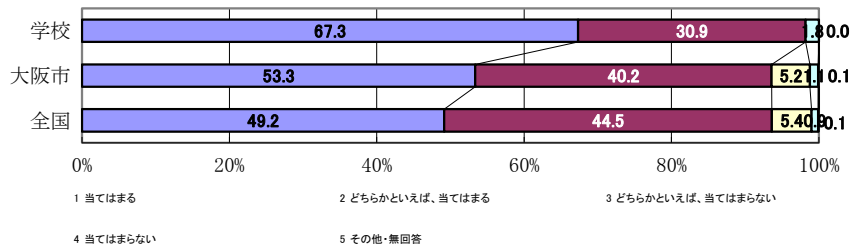
7

将来の夢や目標を持っていますか



8

人が困っているときは、進んで助けていますか



児童質問より

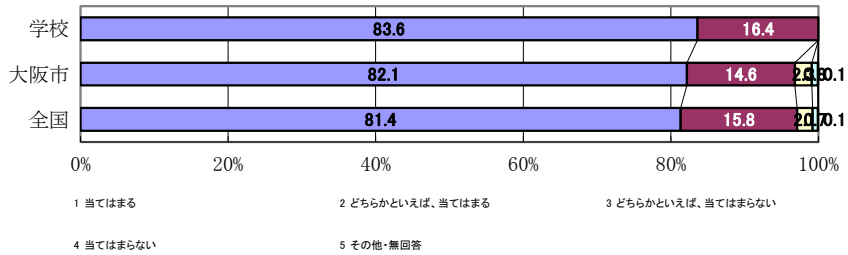
質問番号

質問事項

9

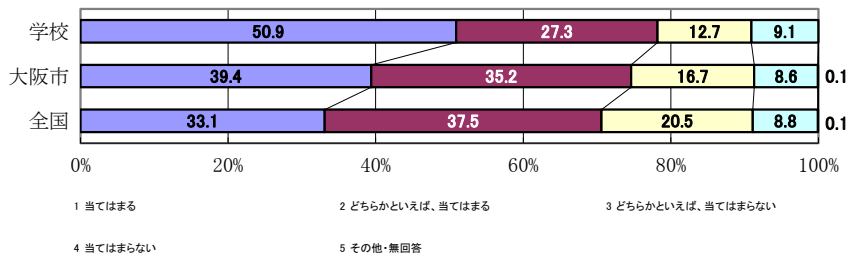
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8



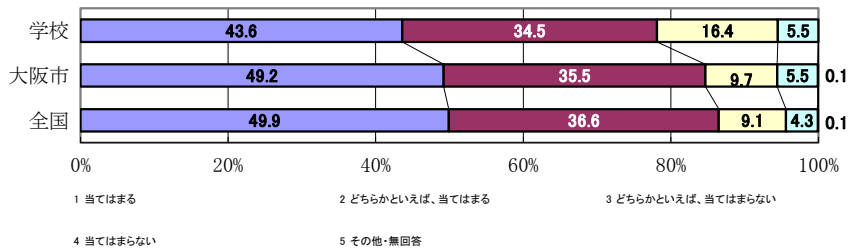
10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



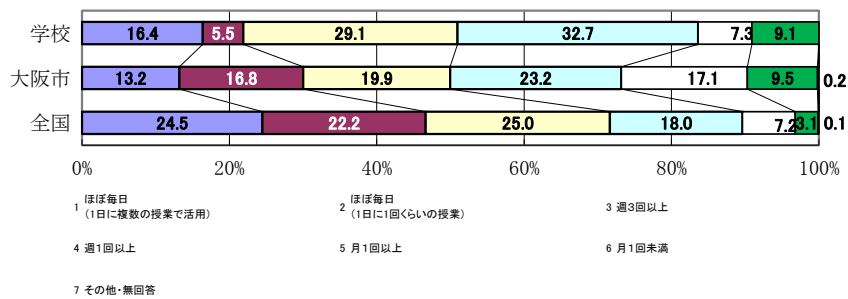
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



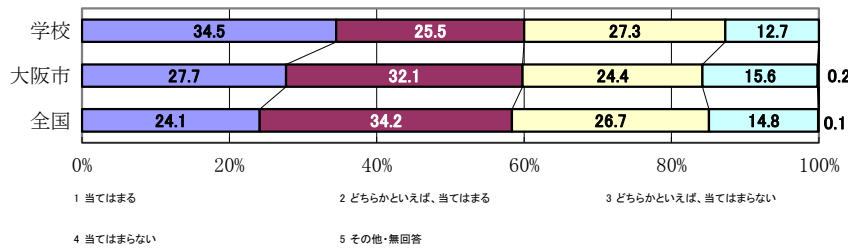
28

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



45

国語の勉強は好きですか



児童質問より

質問番号

質問事項

46

国語の授業の内容はよく分かりますか

1

2

3

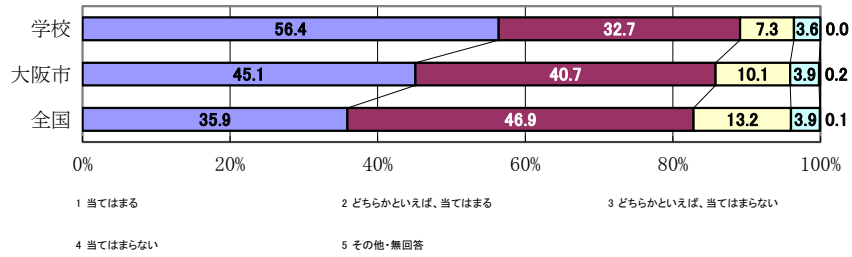
4

5

6

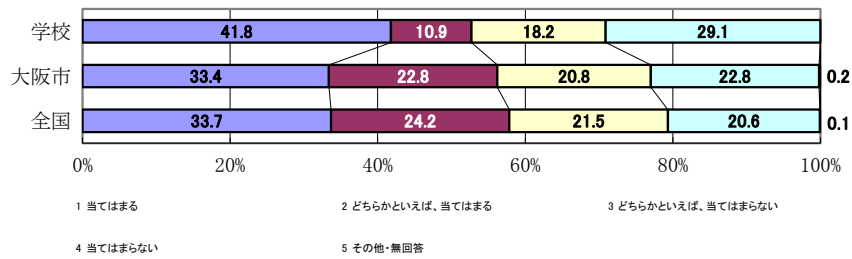
7

8



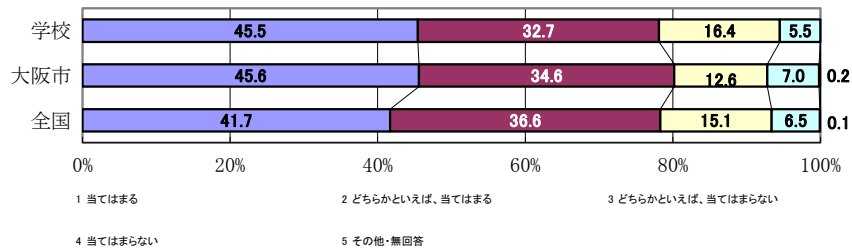
53

算数の勉強は好きですか



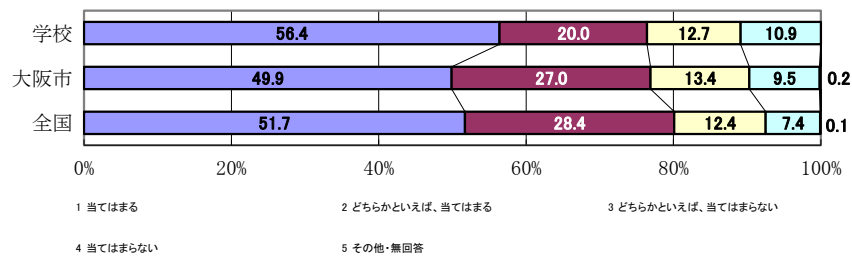
54

算数の授業の内容はよく分かりますか



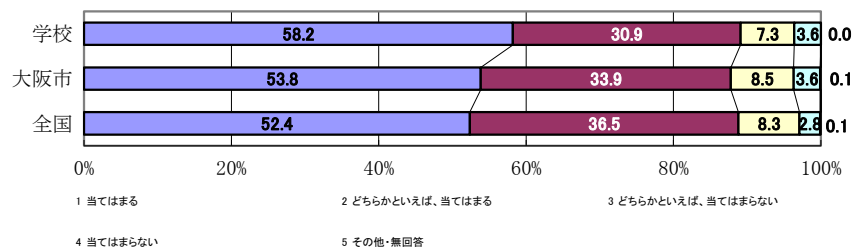
61

理科の勉強は好きですか



62

理科の授業の内容はよく分かりますか



学校質問より

質問番号

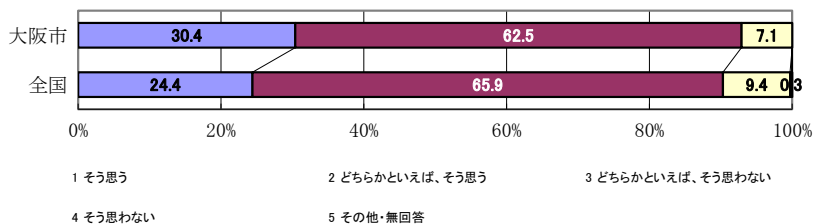
質問事項

7

調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

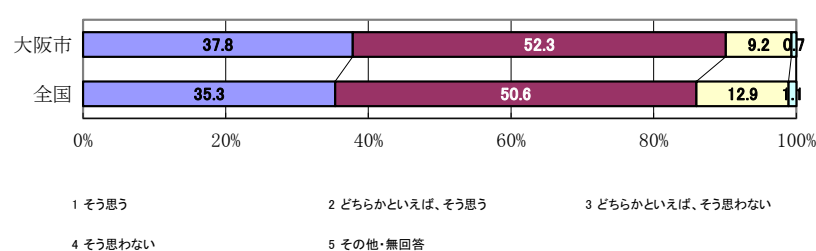
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



8

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

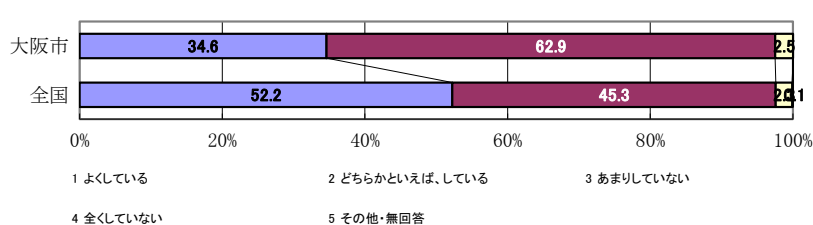
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



16

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

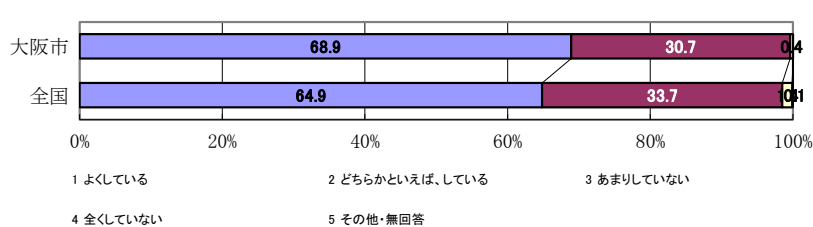
学校 「どちらかといえば、している」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

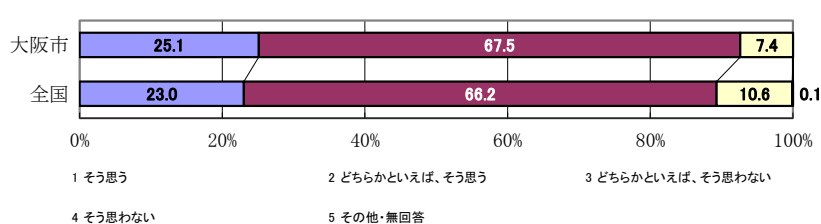
学校 「よくしている」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



学校質問より

質問番号

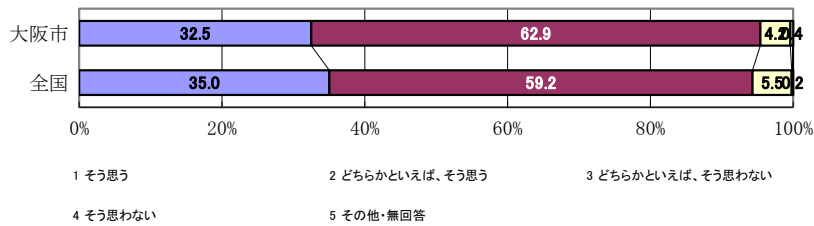
質問事項

28

調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか



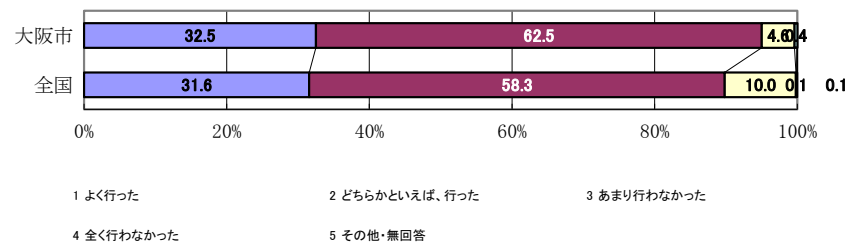
学校 「そう思う」を選択



32

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

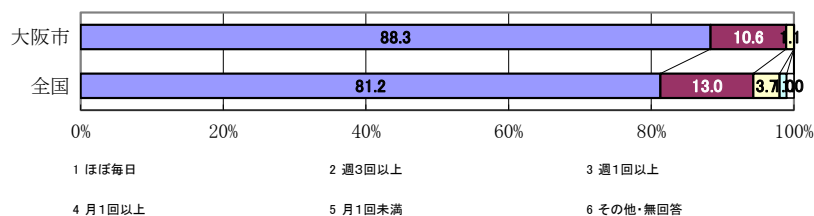
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



55

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

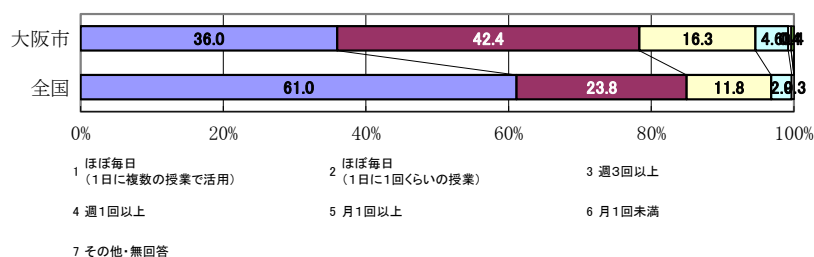
学校 「ほぼ毎日」を選択



58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)」を選択



76

地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか

学校 「よく行った」を選択

